第三回宮古市立地適正化計画検討協議会　会議録

■ 日 時：令和５年２月９日（木）14：30～16：30
■ 場 所：宮古市市民交流センター　２階多目的ホール
■ 次 第
１．開 会
２．あいさつ
３．報告
　(1) これまでの取り組みと今後の予定について
４．議事
　(1) まちの現状・課題について
　(2) アンケート調査について
　(3) その他
５．その他
６．閉会

〔参加者〕
協議会委員：南会長、宇佐美委員、盛岩委員、寺井委員、小笠原委員、髙橋（智）委員、高橋（洋）委員、佐々木（重）委員、松野委員、三浦委員、川崎委員、甲斐谷委員、木村委員、鈴木委員、嵯峨委員、髙濱委員、髙峯委員、盛合（正）委員、久保田委員、佐々木（俊）委員、岩間委員、去石委員、小野寺委員、山崎（正）委員、中屋委員、盛合（弘）委員
事務局【都市計画課】：藤島部長、盛合（弘）課長、中野係長、田道主査、高屋敷主任
【（株）エイト日本技術開発】：島、奥谷

〇質疑応答
(1) まちの現状・課題について
委　　員：資料 2-4 の年齢階級別純移動数のグラフで 2010 年から 2015 年は人口が増えていると理解していいのか。
事　務　局:2010 年から 2015 年は震災後の復興需要の影響で一時的に人口が増加しているものである。
委　　員：このデータは住民票を基に作成されているのか。
事　務　局：国勢調査を基に作成されたデータである。
委　　員：農地の減少について、減少している場所を整理するとのことだがどのように検討していくのか。
事　務　局：資料 2-3 の上部に示した図では農地以外の土地についても表示されており、傾向が見えにくいため、農地を表示したものを重ね合わせて図化を検討している。
委　　員：減少の原因が二つに分かれていると資料で説明されているが、高齢化に伴う減少と非効率な農地の減少とどちらの原因による減少かを図で表現することが可能か。
事　務　局：そのような分析ができるかも含め、傾向が分かりやすいような整理をしたいと思う。
委　　員：バスの人口カバー率について、私自身は普段バスを利用しないがバスを利用している人か

ら話を聞くと、最近は宮古駅に着いても買い物をする場所がないため困ると言われることが多い。盛岡の「でんでんむし」のように、買物しやすいルートを循環するバスがあれば更に利便性が高くなるのではないかと思う。

事　務　局：宮古地区でも地域バスの運行を考えようという動きがある。市民の利便性を考えたバス運行を考えていくべきであると考えている。

委　　員：資料 2-2 の地区別の重茂地区が 0%、花輪地区が 3%どういうふうに見れば良いのか。

事　務　局：表の青枠で囲った箇所のことだと思うが、青枠の箇所は 1 日 10 本以上運行しているバス停の徒歩圏を示しており、重茂地区には 1 日 10 本以上のバスが走っていないため、1 日 10 本以上という条件では人口カバー率が 0%いうことになる。

委　　員：宮古地区でも今後地域バスを検討するということだが、立地適正化計画と地域バスが連動すると効果が出ると思う。

事　務　局：立地適正化計画の中で独自区域の設定を考えており、それを結ぶネットワークも必要になってくるだろうと思っている。

委　　員：地域バスなどを始める際に、タクシーの営収にも係わることなので事前に相談してもらいたい。これまでは相談もなく決まっている。タクシーも法律的に公共交通であるということをご理解いただいて、何かの際には相談に呼んでいただきたい。

事　務　局：地域バスという言い方をしているが、更にそこから先についてはタクシーの皆さんにもご協力いただいているという実態もある。改めて一緒に相談させていただきたい。

委　　員：1 日の運行本数について、例えば旧市町村の時の拠点等を独自の地域として設定していくときに、中心市街地と地域拠点をネットワークとして結んでいるという観点の中では、そこの利便性をいかに確保して、それぞれの地域の拠点を形成するかが大事なのではないかと思う。今後課題に対する取り組み方針などを検討する際に考慮してみてはどうか。

事　務　局：今後対応策を検討する際に様々考えていきたい。

会　　長：立地適正化計画というまちの人口減少に伴って集約するエリアを考えるときに、公共交通とセットで決めていくことが重要である。タクシーも含めて住民の生活に必要な公共交通を支えられるようにネットワークをコーディネートしていくということ。そのときには様々なことを考える必要があるため、皆様で知恵を出し合って良いものにしていければと思う。

委　　員：資料 2-6 の修正特化係数の対数変換値とあるが、数値の見方を教えていただきたい。

事　務　局：対数変換という表現が正しいのかという点もあるが、産業ごとの特徴が出るような計算をおこなったということでご理解していただければと思う。

委　　員：それぞれの専門分野の方々が来られて、専門分野からそれぞれの話ができると思うが、今後方針を議論するに当たってはデータを調べている意味、そのデータからどういう意見を聞きたいのかが分かると、委員側も意見を出しやすくなるのではないか。また、人口減少は宮古市だけではなく全国的なトレンドなので、今から人口を増やしていこうというような意見はナンセンスかと思う。一方で資料 2-4 を見たときに、生産年齢人口に対しての老年人口の比率が 1 を割ろうとしている、そこが大きな転換期なのではないか。人口がどれだけ減ったかというよりも、その比率が宮古市の今後の発展により影響を及ぼすのではないかと思う。その点に関しての分析があると分かりやすい。それが資料 2-5 以降の産業が

どのように変化しているのかというところに繋がっていくのではないか。生産人口年齢が減るのは仕方ないので、一人当たりの生産性を伸ばしていくほかない。一人当たりの生産性を伸ばしていくためにはどのような産業が宮古市にとって重要なのか。そこは産業ビジョンにも関連していくところなので連携が必要である。どのようにその産業を伸ばしていくかのポイントとなるのは、どのような基盤を宮古市が作っていくかであり、それが立地適正化計画にとって一番必要な部分ではないかと思う。

事　務　局：これらのデータをどうまとめて整理していくか、宮古市のまちづくりの方針につなげていくかということが一番大事な部分になってくると認識している。

委　　員：資料 2-10 について、観光についてのデータが 2020 年までしかなく、減少傾向にあるとの記載がある。市内でお土産の販売をしているが、2021 年から 2022 年にかけてお土産の売り上げは増加しているため、宿泊者数も増加傾向にあるのではないかと思っている。もっと新しいデータがないと、参考にならないのではないかと感じた。観光協会でも従来通りではなく新しい取り組みもしているので、そういった情報も取り上げてもらえればと思う。

委　　員：資料 2-7 について、高浜地区の漁業組合員だが、高浜では現在養殖のかきを豊洲へ出荷している。資料にはかき養殖について記載されていない。すき昆布の加工は、人手がかかるため家族数が少なくてやめるということも聞こえてくる。かき養殖の場合、家族 2、3 人でもできるとのことである。かき養殖は収入になるため継続するが、すき昆布の加工は収支が伸びないとの意見も出ている。

事　務　局：資料は地区間の比較として分かりやすいように、わかめや昆布を例として掲載している。水産課で作成した資料にはかきなども含まれているため、そちらも活用していきたいと思う。

(2) アンケート調査について

委　　員：細かい指摘になるが資料 3 のよく買物する地域について、川井地区のように母数が少ない場合は割合を示してもあまり意味がないのではないか。また、その他宮古地区はどの地区を示しているのか分からないので今後アンケートをとる際は検討して頂ければと思う。資料 4-2 について、アンケートはなるべく答えやすいものがいいと思っているためシンプルで良いと感じた。このアンケートで明らかにしたいことや一番の狙いは何か。

事　務　局：既存のデータからは分からないことを地区別に把握したいと考えている。

委　　員：アンケート調査票の歩いての移動に関する設問で、自宅から歩いてどこまで行けるかとも読み取れるし、宮古駅からどこかに移動するのにどのくらい歩けますかとも読み取れる。具体的にどこからどう歩くのかを確認したいのかが分かりにくいのではないかと思った。

事　務　局：歩いての移動に関する設問は、ある程度条件のようなものを示したうえで聞いていきたいと思う。

会　　長：高校生アンケートで一度出てみたいという回答が 6 割ということで頼もしいと感じる一方で、希望先があれば市内で暮らすという人が 6 割もいるので、働く場所を確保する必要がある。学生に聞くと、就職したいところがあれば岩手にいたいという学生も一定数いるので、働く場所の確保が重要だと感じている。

委　　員：資料 3 で、高校生が暮らしやすいと思わない理由の「気軽に遊べる場所が少ない・ない」

とあるが、どういった場所なのか。

委　　員：青年会議所のみらい議会では ROUND1 のような遊ぶところがない、キャトルを ROUND1 にできないかという意見もあった。

委　　員：ROUND1 自体が欲しいのか、それとも ROUND1 のような体を気楽に動かせるような施設が欲しいという意味なのか。

委　　員：そこまでは詳しくは分からなかった。

委　　員：実際に高校生の持っているボキャブラリーで表現しきるのは難しいところがあり、案外掘り下げても正解には至らないのではないかと思う。宮古市がどういうまちを目指していくのかということについて、高校生との意見交換もしつつ、大人がメッセージとして考えていく必要があるのではないかと思う。希望として回答されたものをそのままやっていくとうまくいかないのではないかと思う。

委　　員：宮古市はこれまで復興教育を頑張ってきたというところを実感しているが、一方で高校生のまちづくり学習を通して感じることは、宮古の将来に何が大事かというときも、しっかり学習してない状況ではイオンが欲しいといったようなことを言う。実際イオンがあったら宮古が好きなのかというと、間違いなくそうではない。前回の有識者会の際にも話したが、資料 2-6 の産業についてというところで、強みのあるところとそうではないところに関して、高校生たちはほとんど知らない。将来のことを考えたときに、そういったことを十分参考にしてほしい。そういうものがなくて将来の進路を考えるのは本来良くないと思う。このような高校生のアンケートのみで問うというのは難しく、まずは適切な教育や情報提供を考えてもらうところと、ワークショップなどでうまく話を引き出していくということをやっていかないと、なかなかアンケートで掘り下げていくというのは難しいと思う。

委　　員：宮古市で家賃を無料するなど移住を促進するような取組や予定はあるのか。

事　務　局：移住について現在具体的に取り組んでいることとしては、市営住宅の空き部屋を県外から仕事で宮古に来た人に低い家賃で貸すということで募集しているが、現在利用者は１名となっている。

委　　員：スケジュールを示していただいているが、予定よりも遅れているとのことで、これについては想定よりも議論が深まっているということだと思うので前向きに捉えている。一方で、実際の直接的な立地適正化計画の記載する部分について、独自区域なども含めていろいろ考えているということで、収束に向けて議論を進めないといけない。協議会の進め方に異論はないが、ぜひ東北地方整備局にも早めの相談をしていただければ一緒になって考えていきたい。また、先ほどの移住の議論について、立地適正化計画の誘導施策において誘導区域内外でインセンティブに差をつけるなどといった、立地適正化計画における都市構造とリンクする観点もあると思う。それについては市政全体での判断になるとは思うが、都市構造の実現に向けて若者移住対策を都市構造の観点に結びつけて立地適正化計画に盛り込むことも可能かと思う。

事　務　局：データの掘り下げも進めつつ、計画の形をつくっていかなければならないと痛感している。移住について、若い人達が減り子供たちが少なくなっていくということは、まちそのものが消えていくということだと思う。これについては大きな視点をもって取り組んでいくべきであると思う。住みやすい環境づくりについても施策的に進めていければと思う。

(3) その他

事　務　局：事務局からは特になし。

以　上